



Look Beyond Yourself 自分を越えた眼を

1991-92年度国際ロータリーのテーマ



- 国際ロータリー会長 ラジェンドラ・K. サブー ●第2560地区ガバナー 橋本 力
- 会長——渡辺宏策 ●副会長——内山辰策 ●幹事——石橋育於 ●副幹事——外山雅也
- SAA——五十嵐力 ●副SAA——渋谷正一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 TEL 35-3477
FAX 32-7095

出席者会員数	会員 74名中 57名
先々週出席率	88.89% (前年同期 88.16%)
今日のお花	黄色小菊、キキョウ
ヴェジター	三条南より 小金沢義雄君、菊地賢一君、若林幸哉君 三条北より 山上茂夫君
ゲスト	自衛隊新潟地方連絡部 副部長二等陸佐 広岡征夫殿
先週のメイクアップ	8/13 三条北へ 川又嘉瑞範君 8/19 三条南へ 古沢富雄君、金子左武郎君、細井増雄君 8/20 三条北へ 木許紘一君、池田千秋君、大谷幸平君
会長挨拶	渡辺(宏)会長

特別休会の為本日は2週間ぶりの例会です。1回お休みが有ると大層楽な気分でした。お休みの有り難みがしみじみ感じられました。岩井会員のご母堂がご逝去され、12日に告別式が有りました。クラブを代表して弔意を表して参りました。

小柳会員が13日お仕事中に丸太が落下して腕に当たり、上腕骨粉碎骨折の重症を負い草野整形外科病院に入院されました。幹事と一緒にお見舞いに行ってお参りたいと思います。前の例会は7日のガバナー公式訪問でした。皆様のご協力で大過なく済みます事が出来ま

した。ありがとうございました。

ガバナーのご指導は大所・高所に立ったご指導で、余り細かなご指摘は無く、リラックスした雰囲気の中で行われ助かりました。海を隔てた隣国のソ連は大変な事に成って居ますが、事態は流動的でここ数日が山場ようです。早急に平穏を取り戻し、世界秩序の安定の為に、ペレストロイカの路線が挫折しないよう祈ります。時節柄ご多忙の中、自衛隊新潟連絡所の広岡副部長殿より卓話をお願い致しております。

注) 例会終了後幹事と小柳会員の見舞いに行き来しました。相当の重症で一時は片腕切断の心配も有ったそうですが、幸いにも経過が良く、後遺症も残らないとのこと。激痛も無くなりお元気でした。

幹事報告 石橋幹事

◎例会変更のお知らせ!

三条南RC——9月2日(月) 夏忘れ例会 PM6:30~ 於 魚作

◎橋本力ガバナーより 公式訪問にてのお礼状がとどいております。

ニコニコBOX ￥10,000 8/21日分

小金沢義雄君 (三条南RC)

今年度はじめてのメイキャップです。よろしくお願い致します。

渡辺(宏)君 公式訪問大過なく終らせて頂きました。ご協力感謝申し上げます。特別休会で2週ぶりの例会で楽な思いでした。

石橋君 8月7日、橋本ガバナー公式訪問は、皆様の御協力によりまして、無事終了致しました。又懇親会で、当店御利用いただきましてありがとうございます御座いました。

榎本君 本日のゲストスピーカー広岡副部長殿には御多忙の処、有難う御座いました。

清水君 ローターアクトの例会が明日8/22午後7:30より行われます。ご参加戴く方は明日午後3:00迄に事務局にご連絡下さい。よろしくお願い致します。

渋谷(正)君 大事な公式訪問の時、欠席しましてすみませんでした。取材は無事済みしました。

轡田君 8月14日、20数年ぶりに三条工業時代の同級会をやったら22名集まってくれました。たいへんうれしかったです。又石橋会員には大変お世話になりました。

関本君 入会にあたり、橋本ガバナーからバッチを付けていただいた感動と共に。

委員会報告 環境保全委員会

8月11日(日)、五十嵐川河川敷公園のひまわりが大雨で倒れたため、補修作業に参加した。

参加者 轡田秋夫君、上木六治君。

卓話

自衛隊新潟地方連絡部副部長 廣岡 征夫 殿

略歴 2等陸佐

昭和17年2月22日生れ

熊本県

防衛大学校 第11期生

昭和43年3月 第4戦車大隊(玖珠)大分県

47年2月 西部方面総監部

48年1月 自衛隊沖縄地方連絡部

50年7月 第11偵察隊(真駒内)北海道

51年8月 第11戦車大隊 中隊長(真駒内)北海道

53年8月 北部方面総監部

56年3月 陸上幕僚監部 人事計画課(松町)東京

60年3月 第4偵察隊長(福岡)

62年4月 業務学校 教官(小平)東京

平成2年3月 松町駐屯地 援護室長(松町)

3年7月 新潟地連 副部長



はじめに、自衛隊新潟地方連絡部について業務の紹介を致します。

新潟地方連絡部は本部を新潟市に置き、出張所等を県内(新発田市、新潟市、加茂市、長岡市、柏崎市、上越市及び佐渡)の7ヶ所に配置し、隊員の募集、及び退職予定自衛官の再就職援護業務等並びにこれに係わる県・市町村及び各企業等との連絡・調整業務を実施しております。

なお、加茂募集事務所については常日頃から格別の御配慮を賜り、この場を借りて深く御礼申し上げます。

さて、本題に入ります。内外の情勢を散見しますと、どうしても職業柄次の二つが注目されるのであります。

その一つは勿論ソ連のクーデター(?)の問題であります。これは、湾岸危機とは、全く異質であると考えるのであります。

ソ連は、これまで冷戦を構成してきました軍事的な超大国であり、クーデターの衝撃は全欧州はもとより、極東や中東、そして一方の超大国でありますアメリカに対しても、大きな影響をおよぼしております。各国の反応は時間を追うごとに変化します。それは自国

の安全保障に重大な影響をもたらすからであります。

二つめは、PKO関連の状況であります。

湾岸戦争がそのまま、茶の間話題となり、国連の活動に対し、日本は約140億ドルの協力を致しましたが、なお「汗を流すことを要する。」との考え方から、これは廃案になりましたが国連協力法(案)の国会審議、あるいは航空自衛隊の航空機の派遣(未実施)や、現在ペルシャ湾に派遣されている海上自衛隊の掃海艇など皆様御案内のとおりであります。

国民の皆様の防衛に関する理解・認識が、これを契機に相当に変化してきているのではないかとも思われますが、この問題はまだまだ時間を要するものと思われます。

しかし、私達、直接防衛に携わる者と致しましては、変化する状況に押し流されることなく、常に基本に立ち返ることが重要だと考えておりますのでここでは日本の防衛政策の基本的なことを話させていただきます。

まず、国防の基本方針ですが、これは昭和32年5月に閣議決定され、その内容は次のとおりであります。

- ・国連を支持し、国際間の協調を図り、世界の平和を実現する。
 - ・民生の安定、愛国心を高揚し、国家安全保障の基盤を確立
 - ・国力・国情に応じ、自衛のための必要な限度で防衛力を整備
 - ・侵略に対し、国連が有効機能するまで、米国との安全保障体制で対処
- の4つであります。

更に、その他の基本政策としましては、次のとおりであります。

- ・専守防衛(軍事大国にならない。)
- ・文民統制
- ・非核3原則等であります。

したがって日本の防衛力の整備はこの基本方針に基づき、防衛計画の大綱(昭51.10)を設定致しました。これは、平時から保存すべき防衛力の水準を設定し自らの「力」の空白が地域の不安定要因にならない、という考え方であり、抑止力を重視しております。

これをうけて、保有すべき防衛力を次のように設定しております。

- ・組織、配置共に均衡のとれた態勢(後方支援を含む)を確立する。
- ・平時、十分な警戒態勢をとりうるようにする。
- ・限定、小規模侵略に対処する。
- ・情勢の変化に対応し移行できる基盤的なもの。

したがって、その重視する機能は、

- ・防空

- ・周辺海域の防衛、海上交通の安全確保

- ・着上陸侵攻対処

となっております。

以上ハード面について述べましたが、次はソフト面ともいえる自衛官の任務に対する意識であります。

皆様の会社には通常「社是」ともいえるものがあり、それは大体二つに別れていると思います。その一つは企業の存続・拡大・発展であり、もう一つは、地域社会への貢献となっていると思います。

それに基づき就業規則等が揃えられていると思いますが、自衛隊も又同様に、まず自衛隊法により「自衛隊は外国からの直接及び間接侵略から我が国を防衛することを主たる任務とし、必要により…」となっており、これがすべての基本であり、これを具現化するために、個人及び部隊を育成して参ります訓練基準というものがありまして、日夜これに沿って教育・訓練を実施している訳であります。

その証左が皆様御案内のとおり湾岸戦争時の航空自衛隊の輸送機の派遣(これは途中で中止になりましたが)この度のペルシャ湾での機雷処理のための海上自衛隊の掃海艇派遣であり、陸上自衛隊の雲仙災害への出動であります。ちなみに私は昭和47年復帰当時の沖縄で勤務したことがありますが、沖縄における大量の不発弾処理の為に日夜行動しておりましたある後輩が「毎日、自分は下着だけは洗濯したものを身につけていきます。」「先般、付近の方に、処理の為避難をお願いした所、いろいろな質問をうけましたが最後に私は『最初に犠牲になるのは私ですから御安心下さい』と言いましたら納得していただきました。」と述べておりましたが、そのように私は「自衛官は任務に対し忠実にこれを遂行する。」と確信しております。

やや手前ミソになりましたので次に移りたいと思います。

次は、日・米の国防意識についてであります。

1例ですが米国の湾岸戦争時の出兵状況をみてみますと、米軍の参加兵力(91.1.17現在)は次のとおりであります。

- ・兵員 54万人 支援部隊 15万人 計69万人
- ・TK—約2700両 装甲車—約2600 火砲—約600両 ヘリコプター—1300機
- ・空母 9隻 戦艦巡洋艦等 40隻
- ・航空機(F-15等)約800機 B-52 50機等

であり、この戦力は空母等を除いても、全自衛隊の数倍とも思われるものでございます。

しかし、本日ここで注意したいのは、この兵力の中に予備役が相当数含まれていることでもあります。

予備役の招集数は22万5千人で、実に約30%を占めているこの事実注目したいのであります。これは、現役と予備役を密接に連携させるという1973年の「総合戦力政策」の一環として行われているのであります。

さて、次は日本の状況でございますが、必ずしも米国との比較にはなりません、ここに面白い新聞記事（データ）がありますので御紹介致します。

それは、サンケイ新聞（8月12日朝）の全国高校生の平和観に関するアンケートのデータであります。その結果は、

・国連は世界秩序維持に役立っていると考える者 61% それに対し日本の世界への貢献度は100点満点で49.7点と低く、また日本の各国への援助が十分でないとする者（64.1%）と手厳しい評価をしています。

・しかし、日本が多国籍軍に参加しなかったことを77.1%が賛成していますが、救助・救済の為の自衛隊派遣については77.5%が賛成としています。
更に、日本の防衛費は65.8%が削減すべきであるとし、徴兵制にいたっては90.2%が必要ないとしております。

この結果についてサンケイ新聞では、戦争を否定する一方で国連の機能を評価しているなど、矛盾した答えになっているのは「日本社会の混乱がそのまま持ち込まれた結果」と結んでいます。

以上、米国・日本の意識の1例をだしてみました。

このことをどう考えればよいかということです。

私見ですが、自由と独立を自ら獲得した国とそれを他から与えられた国の相違であろうかとも思いました。

しかし、憲法は国民に自由と権利を保障する場合に必ず「公共の福祉に反しない限り」とうたっています。はじめに申し上げましたように、防衛の問題はまだまだ理解と認識には時間がかかると思われ、私がここでお話しをさせて頂きましたのもそれ故であります。

ありがとうございました。

環 境 保 全

“私達の住む町は、私達の手できれいに!!”

全市一斉クリーンデーに参加を

日 時 9月8日(日) (雨天順延9月15日(日))

午前6:30~7:30 実施合図6:00に花火打ち上げ

集合場所 三条警察署前

8月28日例会 納涼例会 PM6:30~ 於 下田村「公楽」

9月4日例会 卓話 五十嵐総一会員

9月11日例会 早朝例会 PM5:30~於 本成寺
